

会議顛末書

記録者 係長 近野英樹

決裁	教育長	教育部長	課長	課長補佐	係長	グループ員	(合議) 教育委員会 事務局政策監
件名	平成28年度第2回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会						
日時	平成28年9月5日(月) 午後2時00分～午後3時50分						
場所	龍ヶ崎市役所附属棟1階第1会議室						
出席者	樋口直宏会長，今橋浩一副会長，佐藤忠史委員，根本勇一委員，飯島進委員，伊藤祐香委員，斉藤充弘委員，佐藤由美子委員，横田修一委員，大川美那委員 事務局：平塚教育長，荒井教育部長，足立教育総務課長，小貫指導課長，辻井教育センター所長，木村生涯学習課長補佐，重田教育総務課長補佐，岡野係長，記録者						
欠席委員	なし						
傍聴者	4名						
樋口会長	<p>(1) 開会</p> <p>皆様「こんにちは」。定刻となりましたので，ただ今から「平成28年度第2回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会」を開会いたします。本日は，委員の皆様10名全員が参加されていますことを確認申し上げます。この審議会では毎回，議事録を作成しており，前回の議事録が先日配付されたと思いますが，今回も委員の中から議事録を公表する前に，その内容を確認していただくために，議事録署名人を2名交代で選出させていただきます。第2回の審議会の議事録署名人は，根本勇一様とそれから，横田修一様をお願いしたいと思いますので，よろしく願いいたします。</p> <p>本日の議事は，1番目が，龍ヶ崎市の子ども達の現状について，それから2番目の子ども達にとって望ましい学校教育についてを予定しておりますので，よろしく願いいたします。</p>						
樋口会長	<p>(2) 議事</p> <p>1-①. 前回の補足説明について</p> <p>それでは，まず「前回の補足説明について」事務局から説明願います。</p>						
近野係長 木村補佐	<p>～ 資料に基づき説明 ～</p>						
樋口会長	<p>ありがとうございます。ただ今，事務局から説明がありましたが，本日はその都度質問などの意見交換をしていただいて，議題の2のところは自由討論に近い形で皆様からご意見やご提案をいただきたいと思っております。それでは，ただいまの説明につきましてご意見やご質問等がございましたらお</p>						

	<p>願いたします。</p> <p>まず、私の方からですが、保育ルームはすべての小学校の構内に併設されているのでしょうか。それとも、少し離れたところに設置されているのでしょうか。</p>
木村補佐	<p>保育ルームにつきましては、馴染小学校、八原小学校、城ノ内小学校の3校では一部プレハブを利用しておりますが、その他の市内の小学校では余裕教室を利用しております。</p>
横田委員	<p>愛宕中学校にはずいぶん多くの小学校から生徒が通っている一方、生徒数はそれほど多くないということで、これは歴史的な経緯などもあるのだらうと思いますが、いろいろな小学校から生徒が集まってくるということが中1ギャップの要因になりやすいという印象もありまして、将来、中学校区を見直すことなども考える必要があるのかもしれませんが、現状はいかがでしょうか。</p>
根本委員	<p>愛宕中学校に通っているのは、資料の太線になっています龍ヶ崎西小学校と北文間小学校からの児童が大半でして、それ以外の小学校からの児童は非常に少ないというのが現状です。現在の愛宕中学校は各学年2クラスですが、小学校からの同級生が少ない生徒については、別々の学級に別れてしまうことで、中1ギャップのような状況にならないように、中学校入学前から各小学校と連携し、クラス編成などの参考に行っていることもありまして、今のところは中1ギャップのような状況は起きておりません。</p>
今橋副会長	<p>横田委員からのご指摘に関連しますので。私は不登校のことに興味があり調べてみたのですが、1つの小学校から1つの中学校に通う地域については、ある地域では不登校率が低い一方で、別の地域では不登校率が高い所もあるようでした。また、複数の小学校から1つの中学校に集まってくるという地域では、不登校率についてはそれほど開きがない状況です。したがって、多くの小学校から集まってくるから、その中学校で不登校になってしまう生徒が多いということではないという感じがしました。</p> <p>小中一貫の学校については、つくば市の春日学園のような施設一体型の学校における不登校率は低いようです。他方、施設分離型の学校の不登校率は通常の小中学校と変わらないという状況が見えてきましたので、参考にご紹介させていただきました。</p>
樋口会長	<p>資料を見ましても、龍ヶ崎市の不登校の児童生徒数は全国平均と同じくらいに見えますが、これは単年度で見えていますので、見方の工夫が必要なのかもしれません。</p>
飯島委員	<p>指定校の中学校にやりたい部活動がないという理由で、別の中学校に通っている生徒はどのくらいいるのかお聞かせください。また、いじめが理由となっているものも同様に教えてください。</p>

足立課長	部活動を理由に、指定校変更で別の中学校に通っている方は、18名ほどおります。特に城南中学校には部活動が少ないことから、18名中9名が城南中学校から別の中学校へ指定校変更している状況です。また、いじめを理由とした指定校変更は、現在、龍ヶ崎市内ではございません。
樋口会長	1－②. 児童生徒の体力面について それでは、議題1の②「児童生徒の体力面について」事務局から説明をお願いします。
岡野係長	～ 資料に基づき説明 ～
樋口会長	詳細な資料をありがとうございました。事務局から説明がありましたが、同様にこれにつきましてご意見やご質問等ありましたら、お願いいたします。 東京都では体力テストの成績は低いので、オリンピックも近くなったということで、積極的に教育の目標の一つとして体力向上を掲げているという実態もあります。龍ヶ崎市の傾向を見ますと、中学生の方が小学生よりも体力テストの成績が低い。男子の方が女子より成績が高い。中学生になると肥満になる生徒数が増えるという傾向がわかりますね。
横田委員	さきほどの部活動、特にスポーツ系の部活動をしている生徒数が多いのか、少ないのかということと、体力テストの結果が茨城県の平均を下回っていることとの関連について、何か特徴など、どのように分析されているのかというものがあれば教えていただければと思います。
平塚教育長	この体力テストにはいろいろな種目がありまして、特に成績が悪い種目の1つにボール投げが挙げられます。昔はドッジボールなどで遊ぶ機会も多かったと思いますが、今の子ども達は日常的にボールを投げることがないため、学校現場では計画的にプログラムを組んでボール投げをしないと、投げ方がわからないという状況になっています。今の子ども達は運動はしており、スポーツの技術は身につけているのですが、体力に結びついていないということが課題ではないかと分析しております。
飯島委員	龍ヶ崎市が茨城県では平均レベルであるとのことですが、全国でトップレベルの地域と比べると何が違うのでしょうか。また、各学校では何か対策をとっているのでしょうか。
小貫課長	まずその体力テストに臨む態度が大切ですので、各学校では日常的に体力テストと同じような運動を行うことのできる場をつくり、改善を図っているところです。こちらは茨城県全体での取り組みと関わるものですが、当市でも各学校ごとに体力テストの結果を分析し、体力向上に係る1校1プランを作成し、体力向上の取り組みを実施しております。
伊藤委員	部活動の関係でお聞きしたいのですが、外部から指導者を招いている部活動はどのくらいあるのでしょうか。やはり顧問の教員による指導が多いので

	しょうか。
根本委員	愛宕中学校の場合、基本的には学校の教師が担当しています。しかし、すべての教師が担当している部活動の専門家ではありませんので、自身で努力を重ね、指導方法を身につけて指導している教師もいます。また、柔道のような特殊な部活動につきましては、外部講師を招聘し、担当の教師と一緒に指導しています。ただし、外部講師はあくまで講師ですので、必ず教師が顧問として関わっており、二人三脚の体制でやっている現状です。
小貫課長	部活動に関する外部指導者の調査などは教育委員会でも行っておりますが、ほとんどの中学校において外部指導者が入っている状況です。先ほど根本委員からもありましたように、部活動については、管理の部分と指導の部分がありますので、管理の部分は基本的に学校の方が行い、指導の部分については、その専門性が必要なものにつきましては外部指導者を入れているという状況です。
樋口会長	1－③. 児童生徒の生活面について 続きまして、議題の1の③「児童生徒の生活面について」事務局から説明お願いいたします。
辻井所長	～ 資料に基づき説明 ～
樋口会長	ありがとうございました。まず私からお伺いしたいのですが、この学校生活に関する調査は、今回の資料で掲載しているものが、子ども達に聞いている質問項目のすべてでしょうか。
辻井所長	実際の質問項目は、今回掲載しているものの4倍ほどの項目があります。今回は主なものを抜粋し、紹介させていただきました。
樋口会長	この資料を見る限り、大きな変化はないように見えますが、特にどこか課題であると感じた項目があるのでしょうか。
辻井所長	15年間の分析をした結果、「学校が楽しい」と回答している子ども達が大きな変化もなく8割を超えている状況は、良い傾向であると考えております。また、特に顕著であったのが「自己有用感」でありまして、自分がしたことが他の人の役に立ったという項目については、平成23年に東日本大震災があったことから、学校のほうでも指導をした結果、困った人がいれば助けようという意識が高まり、それが今でも続いていることは、非常に好ましい結果であると思います。 あと、授業がわかるという項目については、やはり中学生になると授業の内容も難しくなりますので、わかると回答する子どもが減ることは素直な反応であるかと思っております。わずかではありますが、授業がわかると回答する子どもが増えていることは、学校現場でも授業がわかるように工夫をしている結果ではないかと思っております。

樋口会長	<p>1－④. 児童生徒の学力及び学習状況面について 続きまして、議題の1の④「児童生徒の学力及び学習状況面について」事務局から説明お願いいたします。</p>
小貫課長	<p>～ 資料に基づき説明 ～</p>
樋口会長	<p>通常は8月の終わりに学力調査の結果が出るのですが、今年度は調査漏れがあったとの報道がありまして、今回は前年度である平成27年度の結果を出していただきました。</p>
横田委員	<p>城ノ内小学校の学校評価委員をしているのですが、子ども達が家庭でゲームやスマートフォンをやっている、家庭学習を進めていないという話が出ておりまして、先生が出している宿題ではなく、子ども達が自身で課題を見つけて実施する自主学習のようなものは意外とできていません。これはとても重要だと思うのですが、中学校の家庭学習はどのようにやらせているのか、伺いたいと思います。</p>
根本委員	<p>愛宕中学校でも、家庭学習の時間が少ないことは課題であり、学校から子ども達に家庭学習をやるように指導しても、なかなか定着しない状況です。新年度には学習の手引きを配布しておりまして、家庭学習のやり方をそれぞれの教科ごとに示しております。中学校は教科担任制ですが、家庭学習に関しては、担任が毎日提出させて生徒にアドバイスをしながら、定着を図っているのが現状です。ご質問の趣旨から外れるかもしれませんが、私は市内のさまざまな小中学校で勤務してきた中で、学校によって学力に差があるのも事実でして、家庭学習の定着につきましても、各家庭での意識や習慣などが大切になってくるのではないかと感じております。</p>
小貫課長	<p>市としましては、各学校から学力テストの結果や改善プランを提出していただき、それを分析したものをもとにしまして、市全体の取り組みを進めております。ホームページなども活用しまして、当市の方向性や改善策をお示ししているところです。特に家庭学習につきましては、より良い家庭学習の習慣形成のために、根本委員からもありましたように、家庭学習の手引きを作成しておりますので、これを積極的に活用するように指導助言しております。また、当市の課題であります、家庭学習の時間が少ないことと、ゲームやスマートフォンをしている時間が長いことなどにも各学校のご理解をいただき、その改善に向けた取り組みをお願いしている状況です。</p>
伊藤委員	<p>龍ヶ崎市は理科の成績が良いことがすごいと思うのですが、龍ヶ崎小学校には理科専門の先生がおりますが、他の小学校にも同様に専門の先生がいるのでしょうか。</p>
小貫課長	<p>小学校で専科指導をしているのは龍ヶ崎小学校のみです。他にも何校かモデル事業として教科担任制などの取り組みを行い、理科指導の充実に努めて</p>

	きた事例はありますが、基本的には小学校では担任の先生がすべての教科を指導しているのが現状です。
大川委員	夏休みに小学校4・5年生と中学校1・2年生が算数と数学を勉強する「学びの広場」に参加していると思いますが、算数と数学だけを強化すればよいということではないと感じまして、学校に対して学びの広場で国語もやって欲しいとお願いしたことがあるのですが、先生からは県の事業だから算数しかできないと言われました。したがって今後、国語が苦手な子どももいますので、算数だけではなく選択制のようになるといいと思ったのですが、そのような可能性はあるのでしょうか。
小貫課長	学びの広場サポート事業につきましては、県から市に委託されているものですので、やはりご指摘のような制約があります。市としましては、学びの広場サポートだけではなく、夏休みはさまざまなことにチャレンジできる期間でもありますので、子ども達に対し教科の補充指導であったり、理科研究や発明工夫などのサポートもできるような「龍の子チャレンジサマースクール」を各学校が展開できるようにお願いしております。なかなかすべての教科の対応はできないのですが、学校によっては対象学年を広げたり、子ども達のニーズに対応できるように取り組んでいるところです。
斉藤委員	先ほどの子ども達へのアンケートの中で、自己有用感が平成23年の東日本大震災を機に増加しているという数字がありましたが、ストレスに関する数字はそれほど変わっていないように見えます。これは経済的・社会的な背景などもあるのではないかと感じたのですが、市ではどのようにご覧になっているのかお聞きしたいと思います。
辻井所長	経済的背景などは今回の分析には入れておりませんでした。平成23年3月に震災が起こりまして、小学校高学年以上の子供達には、例えば自分の学校が避難所になった際には、地域から避難してくる方々のために自分達ができることしようという内容も指導項目の中に入れて、マニュアルづくりを行った結果と、自己有用感が向上したこととの関連は、これがすべてではないと思いますが、大きく影響しているという分析を行いました。
今橋副会長	自尊感情については、私が龍ヶ崎市に勤務している当時から低い傾向がありました。自己肯定感をどのような手段で高めていけばよいのかについては、学校だけではなく、地域全体で考えていかなければならない課題であると思います。
根本委員	1つの事例かと思いますが、東日本大震災を契機に、今年は熊本で地震がありました。生徒会から自発的に今度は自分達が何かできるということで、募金活動をやりたいという形にもなっています。やはり東日本大震災を契機にそのような気持ちが確実に育っているという気がしております。

樋口会長	<p>2. 子ども達にとって望ましい学校教育について</p> <p>これまでの議論の続きになろうかと思えますけれども、二番目の議題であります子ども達にとって望ましい学校教育について、まず事務局から簡単にご説明お願いいたします。</p>
重田補佐	<p>～ 説明 ～</p>
樋口会長	<p>前回と今回の審議会を通じて、龍ヶ崎市の現状をいろいろと勉強させていただきまして、そしてこれからどういう学校づくりを進めていけばいいかという課題を検討するということに向かっていきたいと思っておりますので、皆様から前回同様一言ずついただく形で進めたいと思います。</p>
今橋副会長	<p>前回の審議会では、樋口先生から小中一貫教育の展開について講話をいただき、小中一貫教育について法的な根拠、推進する理由や、全国的な設置状況などがわかりました。また、実際に進めていく上ではカリキュラムをどのように編成していくのが鍵であることを伺い、大変参考になりました。私も小中一貫教育にはどのような背景があるのかを考えているのですが、現在、子ども達が抱えている課題をどのように解消していくのかということや、子ども達の能力をどのように開発していくのかという面からの考え方が1つ。もう1つは、児童生徒数が減少している中で、小中学校の統廃合が大きな課題となっている。そこで施設一体型の学校を設置することにより、地域の子ども達や保護者が新しい教育への期待を持てるという面からの考え方であると思います。例えば河内町や旧筑波町の学校がそのような形だと思えます。これには、将来的に学校を維持管理する上でのコストの部分も含まれていると思えます。</p> <p>前回審議会の資料の中にもありましたが、三鷹市が施設隣接型の小中一貫校で学力面でも、生徒指導面でも成果を挙げているようですが、三鷹市では単に小中一貫教育という発想だけではなく、コミュニティスクールの発想も含めた小中一貫教育が進められており、そのような部分で成果が出ているのかなと感じたのですが、龍ヶ崎では今後、小中一貫に関する意見交換会が準備されているということですから、市の方針として小中一貫教育を進めたいという思いが表れていると思えますが、そんな中で、先ほど申し上げた1つ目の考え方と2つ目の考え方の比重的なものがどうなっているのかと、コミュニティスクールに対する考え方について、今後伺っていただけたいなと思っております。</p>
佐藤（忠） 委員	<p>龍ヶ崎西小学校では、来年度に北文間小学校との統合を控えており、現在、子ども達との交流や職員の交流、そして進学する愛宕中学校との交流を進めております。登下校の心配や、各行事の調整など考えなければならないことがたくさんあるのですが、子ども達自身がすごく喜んでおり、新しい友達が増えるとか、いろいろな経験ができるということを楽しみにしているということを大切にしながら、新しい学校づくりに取り組んでいただけたいなと考えております。</p>

根本委員	<p>佐藤先生からもありましたように、愛宕中学校でも北文間小学校と龍ヶ崎西小学校の統合に対する子ども達の思いを大切に育てていきたいと思っています。各学校での課題と言えば、必ず出るのが学力向上です。これには、子ども達に起因する問題もありますが、それ以上に我々教員が学力向上に対して、指導力を磨いていかなければならないと思っております。現在、各学校で学力向上対策のプロジェクトチームを作りまして、不定期で自分の学校ではどのように学力向上に取り組んでいるのか、他の学校から学べることはあるか、という情報交換を行いながら、話し合いを進めているところです。学力向上の効果はすぐに現れるものではありませんので、着実に、合い言葉としては、前年度比プラス1%ということ各各学校で目標として取り組み、学力診断テストの結果に反映していこうと取り組んでいるところです。このような取り組みを通じて、我々教員も変わっていければいいと思っております。11月は龍ヶ崎教育月間です。5日はいろいろな学校の公開があると思いますので、学校の現場をよく見ていただいて、今後の話し合いで忌憚のないご意見いただければありがたいと思います。</p>
飯島委員	<p>城南中学校でも、生徒達がなかなかスポーツ系の部活動に入らないという状況があります。外部講師を呼んで指導をしている部活動もあるのですが、先生方の負担が大きい中で、できるだけことをしていただければと願っております。龍ヶ崎市には流通経済大学がありますので、大学と連携しながら、龍ヶ崎らしい学校づくりをしていただければと思います。また、私は小学校で太鼓の指導をさせていただいておりますが、龍ヶ崎の伝統芸能なども取り入れて、子ども達の思い出に残るような形で育って欲しいと思います。</p>
伊藤委員	<p>来年中学校に入学する娘がいるのですが、自分の小学校からその中学校に入学する人数が2～3人いるかどうかですので、中1ギャップという話もあり、うまく馴染んでいけるのか、親子ともにとっても不安を抱えています。そのような視点からも、小中一貫校を考えていくのは、とても有意義なことかなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いします。</p>
斉藤委員	<p>これまでの話を伺っている中で、小中一貫を進める流れにあると思うのですが、これは龍ヶ崎の将来を考えると必要性は高いと考えています。子ども達が自分の存在感や有用感を感じているということや、龍ヶ崎で育ったという気持ちになれることは大切なことであり、これも教育の1つかもしいないと思いました。</p> <p>また、アンケート結果などを見まして、今の子ども達が置かれている現状がよく理解でき、ありがとうございました。自分が子どもの頃と比べて、今の子ども達はストレスや勉強など大変なんだなと思います。競争社会の中で仕方がない面もありますが、子ども達が自分に誇りを持てるような教育を目指していけたらいいなと、龍ヶ崎としてのオリジナリティのようなものがあってもよいのではないかと。私は地域としてそれを応援して進めていきたいと思いました。</p>

佐藤（由） 委員	<p>高校生になった娘にスマートフォンを持たせました。それ以降、スマートフォンを使っている時間がとても増えてしまいましたので、これをどうにかしたいと思っています。メールなどの内容を確認しようと思えばできるのですが、子どものプライバシーを考えるとそこまでできないので、口頭で変なメールが来ていないかを確認していますが、やはり不安があります。現在、龍ヶ崎でそのようなスマートフォンを使ったトラブルなどの実例があったら教えていただきたいと思います。</p>
辻井所長	<p>今回ご紹介した学校生活に関する調査の中には、パソコンやスマートフォンを使って嫌なことをされたことがあるかという質問項目がありますが、小学校4～6年生では4%、中学生で9.5%です。これは人数にすれば、少ない数ではありませんので、そこをよく踏まえた指導をしていきたいと思っています。</p>
平塚教育長	<p>佐藤委員さんのご指摘で、特に子ども達の中で使われているラインについて心配しております。ラインの中で誹謗中傷があった場合は、学校現場ではほとんど收拾不能となってしまいます。スマートフォンを持たせていないから、わが家は問題ないということではなく、子ども達が事前に知識を持つことが重要であると考えております。実際、学校現場の生徒指導主事に指導したり、この夏休み中には、私から各学校長に指導したりと、この件につきましては、安心できる状況にはありませんので、教育委員会と各学校が連携して、十分に指導していきたいと考えております。</p>
横田委員	<p>今日はたくさんの資料を出していただき、学力的な課題などもあるかと思いますが、龍ヶ崎の子ども達の現状がそれほどひどいものではないと感じました。これをもっと良くしていきたいというのが、この審議会の意味合いだと思っており、私は長戸小学校と城ノ内小学校との統合を経験してきたわけですが、紆余曲折で大変な議論がありました。最初の頃は子ども達の人数が少なくなっている事実を、なかなか地域や保護者の方が受け入れられなかったことで、教育委員会ともめるようなこともありました。教育委員会の皆様が「統合しなさい」ということではなく、この地域のことを地域の皆さんで話し合おうという方針であったため、地域や保護者の方も話し合いを重ねた結果、統合することによる効果を理解し、前向きな気持ちで統合することができたという経緯があります。したがって、今回も小中一貫校ができることで、さまざまな課題が解決するというだけでもないと思いますので、子ども達の将来のことを考えたときに、どのシステムでやっていけばよいのかを、先生も家庭も地域の方も、教育に関わるすべての方に考えていただいて、これからにつなげていくのかということだと思っております。今日はたくさん情報をいただいたので、これを踏まえて、これからどうするのか検討していきたいと思っています。</p>
大川委員	<p>先月の終わりに八原小学校の学校保健委員会に出席させていただいたのですが、八原小学校での結果と、市全体の結果が少し異なっていることがわかりました。例えば、体力テストでは、八原小学校では握力が低かったようですが、市全体ではそんなことはないのです、安心しました。また、ストレッチ</p>

	<p>サーの実態では、15年前も現在も、勉強に次いで、2位に家庭がストレスの原因となっていることに驚きました。これは私たち大人が変わっていないから、子ども達からそのような結果が出るということで、反省する気持ちになりました。日本人は自分のことを低く言って、相手の方を立てるという文化があると思うのですが、私も自分の子どものことを悪く言ってしまったりすることは、子どもにとって自己有用感が高まっていかない原因にもなっているのかなと考えていました。家庭でストレスがかかった状態で「勉強しろ」と言っても、子ども達にあまりわかってもらえないことについては、家庭の問題であり、学校の先生や地域の方に責任を押し付けられるものではありませんので、まず私たち親から意識を変えていきたいなと思いました。</p>
樋口会長	<p>皆様ありがとうございました。私も皆様からさまざまなご意見をちょうだいして、大変勉強になりました。また事務局におかれましては、詳細な資料を作っていただき、お礼申し上げますとともに、次回以降もこのデータに立ち返りながら、また確認しながら議論を進めていきたいと思っております。</p> <p>これは小中一貫教育を進めている各自治体の合言葉と言いますか、経験則なのですが、小中一貫教育は目的ではなく手段であります。小中一貫教育を始めることは大きな事業ですので、どのように進めるのかということに頭が行ってしまって、何のためにやっているのかが後手に回ってしまうこともあるようです。したがって、龍ヶ崎では、前回と今回の審議会において、子ども達の現状を知り、これからどのような課題があり、何を作っていけばよいかというように進めていきたいと考えています。</p> <p>また、委員の何人かの方からもありましたように、龍ヶ崎らしさと言いますか、この部分が悪いから改善しようということだけではなく、前向きな形で龍ヶ崎の特色をどのように出していくのかを見つけることについても、次回以降進めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは本日の議事は以上をしたいと思っております。ご審議くださいますようお願いいたします。この後、特に皆様から何もないようでしたら、事務局から連絡事項がございますので、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
重田補佐	<p>本日もさまざまな貴重なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。最後に次回の審議会の日程でございますが、11月8日火曜日の午前10時から開催させていただきたいと思っておりますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。</p>
岡野係長	<p>本日お配りさせていただいた資料についてです。9月17日の土曜日と9月25日の日曜日に、市民や保護者の方と、小中一貫教育に関する意見交換会を予定しております。市の広報紙やホームページでの告知に加え、保護者の方にお手紙を出しまして、小中一貫教育やこれから子ども達への教育について、いろいろご意見を聞いていきたいと考えております。また、この結果につきましては、審議会におきまして、市民の方からの意見ということで、報告させていただきたいと思っております。事務局から以上でございます。</p>

樋口会長	<p>以上をもちまして、第2回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会を閉会いたします。お疲れ様でした。</p> <p>○平成28年9月5日に開催された龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会の内容については、上記のとおり相違ありません。</p> <p>平成28年9月23日</p> <p>議事録署名人 根本 勇一</p> <p>議事録署名人 横田 修一</p>
------	---